

経済価値評価の先事例における支払意思額

参考資料4

評価対象	調査方法	評価年	設定条件			世帯当たりの年間の支払意思額	集計額	備考	参考資料
			支払期間	集金方法	アンケート調査範囲				
ツシマヤマネコの保護増殖	CVM	2014年	10年間	基金	全国	中央値: 1,015円 平均値: 2,790円	中央値: 約 527億円/年 平均値: 約1,449億円/年	保護増殖事業の中間目標に基づき、20年後に40頭増加のシナリオ	本年度調査
日本全国の干潟再生	CVM	2014年	7年間	基金	全国	中央値: 2,916円 平均値: 4,431円	中央値: 約1,515億円/年 平均値: 約2,302億円/年	愛知目標に基づき、失われた干潟の15%の再生(2020年までの7年間で1,400haの再生)	本年度調査
奄美群島を国立公園に指定することで保全される生物多様性の価値	CVM	2012年	10年間	基金	全国	中央値: 1,728円 平均値: 3,227円	中央値: 約 898億円/年 平均値: 約1,676億円/年	奄美群島を国立公園に指定し、開発行為等の規制、外来種の防除、継続的な調査に基づく対策の実施等により、現在の自然環境を将来にわたって保全していくことに対する支払意思額	昨年度調査 「平成24年度 生物多様性の経済的価値の評価に関する検討会」第2回検討会資料
全国的なシカの食害対策の実施により保全される生物多様性の価値	CVM	2012年	10年間	基金	全国	中央値: 1,666円 平均値: 3,181円	中央値: 約865億円/年 平均値: 約1,653億円/年	柵やネットの設置、個体数管理、人材育成等の取組を拡大し、シカの食害が目立たない状態にまで回復させることに対する支払意思額	昨年度調査 「平成24年度 生物多様性の経済的価値の評価に関する検討会」第2回検討会資料
沖縄県やんばる地域の野生生物保護の価値	CVM	2012年	10年間	基金	全国	中央値: 772円 平均値: 1,921円	集計額に関する記載なし	やんばる地域における希少な固有の野生生物の生息環境を現在の状態に維持するための対策に対する支払意思額	財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 京都大学 長崎大学 名古屋大学(2012)『平成23年度 環境経済の政策研究 経済的価値の内部化による生態系サービスの持続的利用を目指した政策オプションの研究 最終研究報告書』 吉田謙太郎著(2013)『生物多様性と生態系サービスの経済学』昭和堂
沖縄県やんばる地域の野生生物保護、ヤンバルクイナおよびヤンバルテナゴコガネ保護の価値	コンジョイント分析	2012年	10年間	基金	全国	3,981円(ヤンバルクイナを発見当時の1,800羽まで回復させ、ヤンバルテナゴコガネを絶滅から確実に回避させると仮定)	2,070億円/年	ヤンバルクイナおよびヤンバルテナゴコガネの絶滅回避に関する支払意思。 固有種保護のため森林保全面積は271km ² ヤンバルクイナ1羽あたりの限界支払意思額は1.01円/年/世帯 ヤンバルテナゴコガネの確実な絶滅回避への支払意思は約2,473円。	財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 京都大学 長崎大学 名古屋大学(2012)『平成23年度 環境経済の政策研究 経済的価値の内部化による生態系サービスの持続的利用を目指した政策オプションの研究 最終研究報告書』 吉田謙太郎著(2013)『生物多様性と生態系サービスの経済学』昭和堂
宮城県蕪栗沼の水鳥保護の価値	CVM	2010年	10年間	基金	全国	中央値: 917円 平均値: 2,004円	集計額に関する記載なし	蕪栗沼に飛来する水鳥を保護し、現在の飛来数を維持するための保護活動に対する支払意思額	財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 京都大学 長崎大学 名古屋大学(2012)『平成23年度 環境経済の政策研究 経済的価値の内部化による生態系サービスの持続的利用を目指した政策オプションの研究 最終研究報告書』
地球温暖化による干潟消失の回避	CVM	2007年	期間の記述なし	負担金	全国	中央値: 1,599円 平均値: 算出なし (一人あたりの支払意思)	2,043億円/年	地球温暖化により、干潟がすべて失われると仮定 世帯単位ではなく、1人当たりの支払意思額。	大野栄治、佐尾博志(2008)「CVMとTCMIによる干潟の経済価値の計測」『環境システム研究論文集』Vol.36.
曽根海岸干潟の保護	CVM	2002年	期間の記述なし	基金	北九州市	中央値: 3,207円 平均値: 5,421円	集計額に関する記載なし	「より豊かな自然に最も近い干潟」を戻すと仮定。 ターンブル法とワイブル法による金額推計が行われていたが、ワイブル法による結果を表示 小数点以下四捨五入。	四角公一、他(2003)「CVMによる干潟海岸の環境価値に関する研究」『海洋開発論文集』第19巻
諫早湾干潟の保護	CVM	2001年	期間の記述なし	基金	長崎市、諫早市、北九州市	中央値: 2,908円 平均値: 6,422円	集計額に関する記載なし	「より豊かな自然に最も近い干潟」を戻すと仮定。 3市の合計値。 ターンブル法とワイブル法による金額推計が行われていたが、ワイブル法による結果を表示 小数点以下四捨五入。	四角公一、他(2003)「CVMによる干潟海岸の環境価値に関する研究」『海洋開発論文集』第19巻
盤洲干潟の環境経済価値	CVM	2000年	期間の記述なし	基金	木更津市	中央値: 4,179円 平均値: 6,336円	木更津市: 2億3,400万円 全国: 1,671億4,600万円	自然環境の保全・改善・活用を進めるために新規に基金を創設するシナリオ 支払意思額は、抵抗回答を除いた値。平均値は最大提示額で裾切りした平均値 小数点以下は四捨五入。	安田八十五、川村久幸(2004)「東京湾の盤洲干潟に関する環境経済価値の測定と評価」、『経済系』第220集。
藤前干潟の経済価値	CVM	1998年	1回	基金	名古屋市、全国	名古屋市民: 10,260円 名古屋市民以外: 6,555円	全体: 2,960億円 名古屋市: 90億円	代替のごみ処分場を設置するシナリオ 支払意思額は中央値。 小数点以下は四捨五入。	栗山浩一(2000)『図解 環境評価と環境会計』日本評論社。